

R

KANSAI
UNIVERSITY
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

Reed

No. 21

May, 2010

関西大学ニュースレター

発行日：2010年(平成22年)5月25日

発行：関西大学 広報室広報課

大阪府吹田市山手町3-3-35

〒564-8680 / TEL.06-6368-1121

<http://www.kansai-u.ac.jp/>



TAKI

SHIGEO

法曹の仕事の醍醐味

社会の変化に対応して「司法」も変わる

■対談

滝井 繁男
弁護士、元最高裁判所判事
関西大学法科大学院特別顧問教授

上原 洋允
理事長

■リーダーズ・ナウ ー5
在学生ー KBC放送研究会
経済学部3年次生 竹田 健一郎さん
卒業生ー 株式会社ウェザーマップ 気象予報士 美濃岡 洋子さん

■研究最前線
「聖伝」の比較宗教学研究
“教祖”は常に新しく生まれ出される ー7
文学部 ー 宮本 要太郎 教授

遺伝的アルゴリズムの研究開発と応用
“最適解”をコンピュータ上で生成、実用化へ ー9
システム理工学部 電気電子情報工学科 ー 花田 良子 助教

■トピックス「学内情報」 ー11
新キャンパス開設特集
◎高槻ミュージックキャンパス
安全・安心のまちづくりに貢献する
「社会貢献型都市キャンパス」が発進
小・中・高～大学・大学院 一貫教育の新拠点誕生！

◎堺キャンパス
“スポーツ”“福祉”をキーワードに
人間の健康を探究する「人間健康学部」開設
健康に関する幅広い知識を地域と連携しながら実践的に学ぶ

■関大ニュース ー15
高橋大輔さんと織田信成さんに学長表彰 ほか

■対談

法曹の仕事の醍醐味

社会の変化に対応して「司法」も変わる

◎滝井 繁男 ・弁護士、元最高裁判所判事 関西大学法科大学院特別顧問教授

◎上原 洋允 ・理事長

弁護士出身の元最高裁判事、滝井繁男・関西大学法科大学院特別顧問教授は、硬く無表情な今までの裁判官のイメージとは異なる。最高裁の「変化のキーマン」と言われた人と、同じく大阪弁護士会会長を務めた上原洋允理事長との対談は、弁護士・裁判官のあり方、仕事の喜び、そして法律実務家を目指す学生へのアドバイスに及ぶ。



◆画期的だった「大阪空港の夜間飛行差し止め請求」

上原 2002年から2006年まで最高裁判所判事の職務を全うされた滝井繁男先生には、2007年から本学法科大学院特別顧問教授を務めていただいております。最高裁判所は近年、司法の民主化や市民のための司法という観点から見て変化がうかがわれ、立法府や行政庁に対して毅然とした判断を示しています。そうした変化を呼ぶ大きな力を発揮されたのが滝井先生です。ご自身の経験に基づいて最高裁の現状や今後の課題について考察された著書「最高裁判所は変わったか」を、昨年出版されました。行政・民事・刑事の三分野にわたる注目すべき判例が解説されており、司法に新しい潮流が生まれているのを感じます。

今日は忌憚のないご意見をお聞かせください。まず、弁護士生活から振り返っていただきましょう。

滝井 思い出に残る事件はいくつかあります。大阪空港の夜間飛行差し止め請求もその一つです。騒音・振動に悩む住民が「何とかならないか」と弁護士会に相談に来たのです。現地へ行っているいろいろ調べてみると、これはどうにかしないといけないという考えをもち、訴訟を引き受けました。私が弁護士になって7、8年目ごろでした。

当時、この種の事件では損害賠償は認められても、動いている公共交通機関を止めるようなことはできないはずないじゃないかという考え方が一般的だったと思います。万博を控えて大阪空港が拡張され、プロペラ機からジェット機の時代になっていました。万博のメインテーマが「人類の進歩と調和」でした。そこで、住民の一人が「進歩ばかりで我々の生活との調和なんて全く考えてくれてへんやないか」とおっしゃったのを忘れもしません。調和点はどこにあるかといえば、せめて夜間だけでも飛行機を止めるということではないかと――。

今でこそ人格権に基づく差し止め請求は常識になっていますが、当時はそんな考え方を書いている本はあっても、実際に飛行の差し止めをできるなんて夢のまた夢みたいな時代でした。当時は、注目を集めている公害といえば、水俣病、タイタイ病、四日市喘息など深刻な被害が目に見えたもので、騒音とか振動とかの被害は分かりにくく、それは一時的なものじゃないかとも言われて、なかなか理解してもらうことが難しかったのです。ただ我々も若かったから、「正義は我にあり」というような高揚感で突き進みました。決着するまでには十数年かかりましたね。

◆弁護士と裁判官の違いは？

滝井 弁護士は依頼者のために、どういう主張をすればいいのかを一生懸命に考えて全力を尽くします。しかし、負けてしまったら、いくら頑張っても達成感がありません。また、誰がやっても勝てるような事件で勝っても、あまりうれしくない。自分が権利実現に寄与したと思えたときに大きな喜びを感じますが、逆に勝って当然と思っていたのに負けてしまうと、弁護士をしているのが嫌になることもあるのです。

上原 そうですね。私は戦後の農地解放に伴い、大阪府下全域

にわたる訴訟で、小作農の立場で弁護する事件を長年やりました。「七人の侍」と一緒に、最後に勝ったのは農民で、私は農地買収した行政側、つまり国・府の代理人ですから、次々に勝訴してもたいへん安い報酬でした。ただ金銭を度外視しても、やるべきことをやらなければなりません。感謝されてもされなくても、力になれたという満足感があります。このような努力は長い弁護士生活のなかで、必ずいろいろな形で報われるものです。

ところで、弁護士と裁判官は、司法の究極の目的を考えるとあまり変わらないように思いますが、仕事の内容はずいぶん違いますね。



滝井 裁判官は、両方の言い分を聞いて、自分の考えで判断します。私は裁判官になってはじめて実感しましたが、これはかなり達成感がある仕事です。弁護士に比べて裁判官は自由がないと言われていて、確かに日常生活上の自由は制限されるが、判断する自由は思った以上にあるものです。

今、裁判官志望者が多いのは結構なことですが、私が懸念しているのは、裁判官が「自分は大勢の中から選ばれた」という気持ちになることです。紛争の判断者は、一段上に立ってはいない絶対的に正しい判断はできないと思います。

また、弁護士よりも様々な種類の多数の事件を処理しているから自分の方が社会の実状を熟知していると思っている裁判官が多い。大事なことは、扱う事件の数ではなくて、社会生活の中にどれだけ溶け込んで理解しているかです。その点では弁護士もあんまり胸を張れないと思うのですが、少なくとも弁護士は相手方と交渉したり、いろんな人と会ったりする中で批判も受け、その中で考える機会がある。だが、裁判官はあまり人と付き合う機会、まして批判されることがない。従来、広く付き合うべきじゃないという考え方もあって、ほとんど裁判所の人としか付き合わない。そうすると、ものの考え方がどうしても片寄ってくるのが怖い。裁判員制度が発足し、市民と話す機会ができたのは、私は非常にいいことだと思っています。

上原 司法の世界はピラミッド型で、いちばん頂点にある最高裁判所が変わると、司法全体が変わってきます。最高裁の判断というのは、非常に大きな影響を及ぼします。弁護士から裁判官になる人ができるだけ増えたらいいと思いますが、だいたい人数の枠が決まっています。割り振りされているのが現状です。

■対談



滝井 繁男(たきい しげお)
1936年京都府生まれ。61年京都大学法学部卒業。63年弁護士登録。日本弁護士連合会研修委員会委員長、法制審議会民事訴訟法部会委員、最高裁判所民事規則制定諮問委員会委員を経て、99年大阪弁護士会会長、日本弁護士連合会副会長。2002～06年最高裁判所判事。チソン水俣病関西訴訟、グレーゾーン金利判決などを担当審理。07年関西大学法科大学院特別顧問教授に就任。弁護士。著書に「最高裁判所は変わったか——一裁判官の自己検証」(岩波書店)など。



滝井 繁男・著
「最高裁判所は変わったか——一裁判官の自己検証」(岩波書店)

滝井 最高裁の裁判官の数を増やすことは、以前から言われています。ところが、最高裁は通常事件の終審裁判所であるだけでなく、法令の憲法適合性を判断する権限をもつ終審裁判所、つまり憲法裁判所でもあります。憲法裁判所であるかぎり、ワン・ベンチでないといけないから、あまり増やせないという問題がある。15人でも議論にかなり時間がかかる。アメリカ連邦最高裁判所は9人です。

私が懸念しているのは、裁判官が「自分は大勢の中から選ばれた」という気持ちになることです。紛争の判断者は、一段上に立ってはいは絶対に正しい判断はできないと思います。

◆関連の法律と時代背景を考えると柔軟に解釈

上原 明治時代に制定された法律が改正を重ねてきていますので、裁判所が拡張解釈の範囲内で柔軟に対応せざるをえない場合があります。それでも良識上許せないような事件では、法律を改正すべきです。消費者金融関係の訴訟、いわゆるグレーゾーン金利判決では、滝井先生が示された判断に注目が集まりました。滝井 新聞に驚天動地の判決などと書かれたりしましたが、自分では必ずしもそうとは思っていないのです。法律の解釈というのは二つポイントがあり、一つはその法律だけではなくて関連の法律も含めて見なければならぬこと。もう一つは、法律ができた時代が変わると紛争のバックグラウンドも変わってくることを考えた上で、柔軟に解釈しなければならぬ場合があります。

利息制限法と貸金業規制法という二つの法律があるときに、どういうふうに整合性をもたせて解釈するのか。私の考え方は、利息制限法は原則で、貸金業規制法はその特則です。特則というのはかなり厳しく解釈しないと、原則法が死んでしまいかねません。具体的には、利息制限法は年利の上限を15～20%と定めているが、貸金業規制法では「借り手が任意に支払う」などの条件で、出資法の上限(29.2%)までのグレーゾーン金利を認めていた。私は、例外は厳格に解釈すべきだという考えから「違法金利を含めて分割弁済の支払いが遅れた場合は全額を一括弁済し、損害金を払わなければならない」という特約のもとでの支払いは、任意のものとはいえないという意見を述べました。また、貸金業規制法ができたときに、貸し過ぎをしてはならないと書いてあるのに、お構いなしにどんどん貸し付けた。テレビでも派手に広告をして、高利で借りたためにかえって借金が大きくなり、自殺者も出ている一方で、消費者金融が空前の利益を上げている。これはどこがおかしいと考えると、私の解釈は十分説得力を持つと思いましたが。ただその時には、あんなに早く多数意見になって、グレーゾーン金利が撤廃され貸金業規制法が改正されるということまでは考えていませんでした。

◆司法試験対策には集中力がものをいう

上原 本学の法学部ならびに法科大学院の充実、改善策については、常任理事会のもとに「専門職大学院検討部会」を設置し、平成22年3月に最終報告が出されました。法学部と法科大学院との連携強化や、法科大学院進学を目指す学生用の履修モデル科目を、法科大学院の教員が担当するといったことが挙げられています。こうした改革案を早期に実現することで、伝統ある「法科の関大」の復活を図っていますが、滝井先生からご覧になっていかがですか。

司法を背負って立つ学生は、目先のことだけではなくて、基本的人権や利益の擁護により、国民の幸福な生活を実現することを考えて勉強しなければならない。

滝井 私がこの世界に入ったところは関西大学の出身者は、ものすごく元気でバイタリティーあふれる野人みたいな人がたくさんおられましたね。最近の学生は関西大学に限りませんが、こちんまりとまって優等生になっているのではないかなと思うのです。法律の解釈というのは、かなりダイナミックなところがありますから、先例の中だけで物事を考えているのは社会の変化に対応できません。

ところが、試験に合格するには技術的なものも要求されるので、そこバランスが難しく、教える側も苦勞されていると思います。試験には暗記がものをいうことがあるので暗記に走りがちですが、暗記では決して力がつかないし、仮に司法試験に通ってもそれで満足していたら大成しません。合格しただけで何か大きなものを乗り越えたと思っている人が少なくないのですが、実はそれからスタートで、それからの努力で本当の実務家として腕の見せどころがでてくるのです。

上原 今は生活が豊かだからか、司法試験に少しでも早く通らないと時間をもったいない、あるいは親を安心させたいという気持ちはないのかな、と思うことがありますね。鉄は熱いうちに打てという格言があるように、目標を定めたら一日も早く、その目標を達成してほしいと思っています。

滝井 試験勉強は、とにかく集中力がものを言います。時間をかけたらかけただけ力がつくというものではないでしょう。持って生まれた集中力の高い人もいるかもしれないが、やっぱり面白いと思わないと集中力は出てこない。仕事をしていると、時間がたつのを忘れることがある。それは決して楽しいから時間を忘れるのではなくて、これをなんとかしよう、答えを見つけようと努力をしようとするとき、時間を忘れてしまうのです。

暗記というのは全然面白くないけれども、試験は暗記したほうがある程度点が取れるという面がある。それに、今の学生諸君がかわいそうだと思うのは、本があふれていて、隣の人が違う本を読んでいたら、あっちのほうがいいのではないかと目移りすること。昔はあまり本がなかったので、みんな同じ本を読んでいて、分からなかったら隣の人と議論することもできたのですが……。

◆法律実務家はやりがいのある一生の仕事

上原 最後に、関西大学の学生のみならず、法曹を目指す人に何か一言お願いいたします。

滝井 私は、法律実務家の仕事は一生を託するに足る仕事だと思っています。ただし、そのためにはものすごく努力が必要です。単に試験に通っただけでは、美術学校を卒業しても一人前の画家として通じるわけではないのと同じで、一生勉強しなければならない世界です。しかし、弁護士も裁判官も、まじめに



上原 洋允(うえはら よういん)
1933年香川県生まれ。57年関西大学法学部卒業後、大阪立大学大学院法学研究科に進み、58年司法試験合格、59年同研究科修了。61年から弁護士を開業。関西大学司法試験受験研究会で指導に当たり、関西大学法律相談所の顧問を務める。95年大阪弁護士会会長、近畿弁護士会連合会理事長。2004～06年関西大学大学院法務研究科(法科大学院)特別顧問教授。03～06年関西大学校友会会長。学関西大学常務理事、専務理事を経て、08年10月理事長に就任。

取り組めばその努力は報いられる、仕事の醍醐味が得られる世界です。

以前、司法制度改革審議会ができたとき、司法は立法や行政に比べて存在感が薄かったのです。2001年の意見書は、司法の重要性を強調しました。立法は法律を作るが、司法は具体的に法律を紛争に適用し、法律を生かす世界であって、だから政治部門と司法は公共性の二本の柱となるべきものだと位置づけました。今の制度もまだ途上ですから、いろんな難しい問題がありますけれども、将来はますます働きがいがある世界になっていくと思っています。ですから、多くの人に司法の世界へ入ってきてほしいですね。

上原 本学の前身である関西法律学校の開校に大変尽力され、校祖とも言われている児島惟謙大審院長は、「大津事件」の際、司法権の独立を守った人物として有名ですが、本学の建学の精神になっている「正義を権力より護れ」の言葉は、ここから来ています。三権分立の中で、立法、司法、行政の三つがバランスよく作用しないとけません。司法の役割は大きく、特に立法、行政に対するチェックが重要です。司法を背負って立つ学生は、目先のことだけではなくて、基本的人権や利益の擁護により、国民の幸福な生活を実現することを考えて勉強しなければならない。滝井先生には、新入生対象にお話をさせていただくと同時に、ぜひ授業でも司法の重要性を理解するようご指導いただきたい。よろしくお願いたします。

■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]

絶妙の掛け合いで “エコ”の心を響かせる

第26回 NHK全国大学放送コンテスト
音声 CM部門1位

● KBC 関西大学放送研究会 経済学部3年次生
竹田 健一郎 さん

昨年12月に開催された第26回NHK全国大学放送コンテストの音声CM部門で、KBC関西大学放送研究会が1位の栄誉に輝いた。「響かせよう、エコの心」というタイトルで、“エコ”に“エコー”をかけた言葉遊びが冴えた作品。企画・制作し、自ら声の出演もした竹田健一郎さんに、作品の狙いなどを聞いた。

(男)なあなあ、地球環境について考えたことある？

(女)この前、飛行機でいちばん安い席に……。

(男)それはエコノミーや。

(女)えーっ、そういえば健太君がこの間、テストで100点取ってたって。

(男)それは頭のええ子や。つまりはな、エコロジーや、エコロジーや、エコロジーや……。

(女)えーっ、何でエコーかかっているん、かかっているん、かかっているん……？

(男)エコの心を響かせたいんや、たいんや、たいんや……。

(男・女)心に響け、エコ魂。

(女)KBC関西大学放送研究会。



竹田 健一郎—ただけんいちろう
■1988(昭和63)年、愛媛県生まれ。香川県で育ち、香川誠陵高等学校卒業。経済学部3年次生。KBC関西大学放送研究会所属。第26回NHK全国大学放送コンテスト音声CM部門1位。

「響かせよう、エコの心」のタイトルどおり、この30秒のCM作品はエコーがよく効いて、終わったあとも掛け合い口調のおかしさが耳に残響している。

今回のテーマが「エコ」と決まったとき、竹田さんはもっと複雑な作品を考えたが、途中からよりシンプルでわかりやすいコメディ要素も取り入れた楽しいものに切り替えた。

「子どもから大人まで、幅広い年齢層にエコロジーを意識してもらうため、『わかりやすさ』をモットーに、言葉遊びの要素も入れてテンポよく進めることに力を入れました。ツッコミのタイミングや男女の役を変えるなど、いろいろ試してみました。部内で公表したときは、『えせ関西弁ちゃうのん?』みたいな厳しい声が多かったのですが、それは耳に印象を残すための戦略であり、わざとベタベタな大阪の感じを出してみたんです」

それが功を奏したのか、見事1位を獲得した。特に今回は、関西大学のメンバーが実力をを見せて、アナウンス部門で3位、DJ部門で2位と4位の好成績だった。

KBC関西大学放送研究会の活動の中心は、月曜日から土曜日までのお昼休みの放送。ディレクター部、アナウンサー部、ミキサー部の3部門に分かれていて、竹田さんはディレクターを務めている。

「ちゃんと企画し、計算して作り上げると達成感があり、すごく面白い。NHK全国大学放送コンテストには、今年もチャレンジしたいですね。他にはウェブ媒体とメディアミックスし、レスポンスが直に返ってくるような番組もやってみたいです」

気象予報士は まさに“天職”

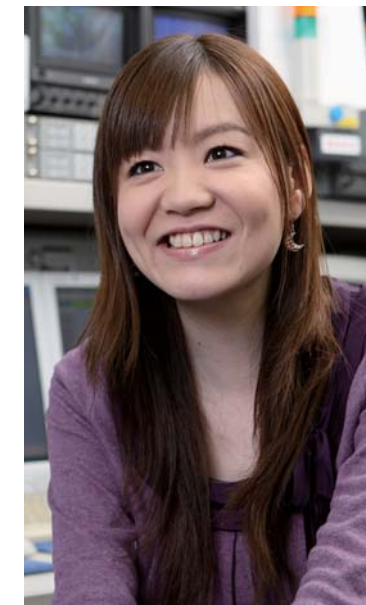
「空が読めるって、楽しくてカッコいい」

●株式会社ウェザーマップ 気象予報士
美濃岡 洋子 さん—社会学部 2001年卒業—

今年の春は寒暖の差が激しく、天候不順で野菜が高騰し、東京では桜の花に雪が降り積もる景色が見られた。雨の用意や服装が気になって天気予報に注目した方も多かったことだろう。そこで真価を発揮するのが気象予報士だ。気象予報士としてテレビで活躍している美濃岡洋子さんを訪ねて、テレビ局(テレビ東京)にお邪魔した。

美濃岡さんが関西大学に入学したのは、「大きな総合大学にあこがれて、これぞキャンパスという感じが自分のイメージどおりだったから」。コピーライターを志望し、植條則夫教授(現名誉教授)のゼミに入った。が、3年次生の夏ごろからモデルの仕事が忙しくなり、東京で暮らす日が多くなった。4年次生になると週1回のゼミのために、なんと飛行機で通学していたというから驚く。「アルバイトのつもりで気軽に始めたモデルの仕事がすごく楽しくて、もっと本格的にやりたいと思い自分から東京に出ていきました。気象予報士は、話す言葉を考えたり文章を書いたりする必要があるのですが、学生時代、コピーライターの勉強をしたことがテクニク的に役立っています」

気象予報士になったいきさつは？
「モデルの仕事をしていたときに、野外の撮影で、たまたま雨が降りそうな空になったときに、カメラマンの方が空模様を見て『この雲があと数十分ほどして行き過ぎたら大丈夫、雨は降らない』と言ったのです。空が読めるってカッコいいなあ、こういうときに自分が教えてあげられたらいいな、楽しいだろうな、と思いました。女性でも年齢を重ねるほど深みが出る仕事、知識や経験を生かしてどんどん良くなる仕事って何だろうと考えていたこともあって、新しい



美濃岡 洋子—みのおか ようこ
■1978(昭和53)年、大阪府生まれ。2001年関西大学社会学部卒業。モデルを経て、2002年から気象予報士。現在、テレビ東京系「TXNニュース」(土・日)、e-天気.net「That's! 天気予報」(木・金)などに出演。

道が見えてきました」

自然科学の分野の勉強も独学で挑戦し、2002年10月に気象予報士の資格を取得。

気象予報士は与えられた原稿を読むのではなく、自分で判断し、自分で原稿も用意する。視聴者が今、何をいちばん知りたがっているか、優先順位を考えて“削る勇気”が必要という。

美濃岡さんは自身のブログに書いている。「関東地方、今夜の夜桜見物は、折りたたみの傘があると安心」。きょうのオンエアで、この一言、言うべきかギリギリまで迷いました。にわか雨の『可能性』は確かでしたが、今夜の雨雲は小さく、場所は超ピンポイント、どこで急発生するかも予測不能なタイプ。……悩みましたが、言うてよかった。通り雨、思いっきり、都心を直撃しました。知らずに濡れてしまったお花見客にとっては、ひじょーに腹立たしい雨かと思いますが、私は今、おそらく世界一、今夜の雨を喜んでいる人です。スママセンネ。私の予報を見て、濡れずに済んだ人がいれば嬉しいなあ」

こんな文章を読んでいると、天気予報がはずれても、文句を言う気にはならない。四季の変化に富んだ国に住んでいるのだから、季節感あふれる生活をしなきゃ。美濃岡さんの気象予報に注目しよう。

■研究最前線

「聖伝」の比較宗教学的的研究

“教祖”は常に新しく生み出される

新宗教の研究から現代の“貧・病・争”の問題まで

●文学部

宮本 要太郎 教授

宮本要太郎教授は、聖徳太子が聖なる人物として神話的に伝承されていることに注目し、その宗教的な意義を研究した博士論文に基づく著書『聖伝の構造に関する宗教学的的研究』を2003年に出版した。神話と歴史が統合される「聖伝」の宗教的構造を追究するとともに、一貫して新宗教の研究を続けてきた宮本教授は、現代の閉塞的な社会状況の中で宗教の社会的活動への関心を深めている。



宮本要太郎・著
『聖伝の構造に関する宗教学的的研究』
(大学教育出版)

■記憶が伝承され、「教祖」が形成されていく

——そもそも「聖伝」とは？

一種の伝記なのですが、普通の伝記と違うのは、取り扱う対象が一般の人間とは異なり、その人を通して何か「聖なるもの」があらわれているという意味で、「聖なる人物」を取り上げるところです。イエス伝も仏伝も聖伝といえますが、新宗教の教祖の場合にもあてはまります。天理教や金光教などは教祖が亡くなってから100年以上たっていて、信者の方たちは直接には教祖を知らない。しかし、非常にリアルな教祖のイメージを持っている。それがなぜ可能かというところから、「教祖」は常に新しく生み出されていく、あるいは構築されていくのではないかと、というふうにつまみ直したわけです。

教祖についての伝承や記憶が、常に教祖像を更新し続け、それによって教祖が今ここに生きているという実感を持ち続けることができる。ある時代に生きた人物(過去)よりも、その人についての記憶が伝承され、時には意味を組み換えられて「教祖」(現在)が形成されていくという側面のほうに、私の関心もシフトしてきたのです。

ある人物を聖なる存在と見なして、その人の伝記を書く、場合によってはその人の前世までさかのぼって描くというタイプの宗教的物語は、古代から存在します。それを「聖伝」という切り口で、学問の対象としたわけです。聖人伝、聖者伝、祖師伝、



教祖伝など、聖なる伝記は世界中のさまざまな宗教において見いだされますが、それらを包含する概念としての聖伝に対する比較宗教学的的研究は、ほとんど進んでいません。

■聖徳太子その人よりも、その実在を信じた人々に着目

——聖徳太子伝を中心に聖伝の構造について研究されましたが、聖徳太子は本当に存在していたのですか。

よく聞かれるのですが、私はその問題にそれほど関心がないのです。聖徳太子という人物が実際に存在したかどうかではなく、少なくとも聖徳太子の実在を信じて疑わなかった人たちが、聖徳太子のイメージをどんどん膨らませていって、膨大な聖徳太子伝が書かれた。そういう人たちがいたというのは歴史的な事実なのです。その人たちが、ある時代にどうしてこのような聖徳太子のイメージを持ったのか。そして、どうしてこのような聖伝が書かれたのか。

聖徳太子伝と現代の教祖の聖伝を比較してみると、新しく見えてくるものがあります。さまざまな歴史の出来事の意味を新たに解釈し直して、それを救済史に書き直す——聖徳太子伝はそういうふうにならされており、いわば「歴史の神話化」です。

一方、新宗教の教祖伝の場合は、現に生きていた時代と連続して今に生きている教祖をリアルに生き生きと描き出すところに力点が置かれています。そういう意味では、逆に「神話の歴史化」といえるでしょう。つまり、聖なる存在としての教祖が今ここに、我々と一緒に、辛苦を共有して生きていらっしゃるんだということを読み取る、あるいは実感することができる。だからこそ、聖伝は救済の力を持つことができるのです。

——一口に新宗教と言っても、近代になって生まれた宗教と現代の宗教では違いがあるのでは？

少なくとも高度経済成長期までは、日本の新宗教は主に“貧・病・争”に向き合い、その苦しみに人々を直接救うという

ころに特徴がありました。しかし、高度経済成長期以降はいわゆる自分探し、自己とは何かを追究するような方向に向かい、それを新宗教と区別して「新新宗教」という言い方もされます。けれども、自分自身が何か聖なるものとのつながりを求めるという点では、古いタイプの新宗教も新新宗教も基本的には同じではないかと、私は考えています。

■学生と一緒に四国遍路、宗教施設訪問

——毎年、学生を連れて四国遍路に出かけたり、新宗教教団などを訪れているそうですね。

宗教学実習の授業で、下調べをしたうえで実際に宗教施設を訪れ、自分の目で確認し、質問に答えてもらうフィールドワーク的なことを行っています。私の他の授業に出ている学生も希望者は参加することができ、天理教、PL教団、弁天宗などの新宗教の教団やモスク、神社などを訪問しています。

四国八十八箇所のお遍路は、毎年夏休みを利用して少しずつ回っています。強い日差しに照らされて長時間歩いていると、あちこちで声をかけられ、時には「お接待」を受けたりします。現代の日本社会では、見知らぬ他人から親切にもらえる体験が希薄なので、そういう風土は学生にとっては斬新な宗教体験みたいですね。



フィールドワークとして毎年学生とともに回っている、四国八十八箇所のお遍路

■魂の貧困に対する宗教の社会的活動

——これからの研究課題や取り組みたいことは？

聖伝の研究は続けていくつもりですが、最近特に関心があるのは宗教の社会的活動です。例えば、今日新たに貧困の問題がクローズアップされていますが、貧困者の救済は、実は古くから宗教の真骨頂だったわけです。現代において、宗教が貧困に対して取り組む可能性はどこにあるのか。例えば、ホームレスの“ホーム”という意味を、屋根付きの家ではなくて自分の魂が安心して休めるところと捉え直すと、日本人の多くがホームレス化しているのではないのでしょうか。

“病”の問題もリンクしています。増えているうつ病や引きこもりは、現代的な病だと思えます。また“争”の問題も根深いところにあり、家族の中でも絆が失われ、身近なところに不和や不信が広がっています。



神戸モスクは神戸市中央区にあるイスラーム寺院。日本で最初に建てられたモスクでもある

モスクの内部



稲荷神社の総本宮とされる伏見稲荷大社。写真左は千本鳥居



“貧・病・争”の問題は、戦後の混乱期よりも現代のほうがむしろ深刻ではないかと思えるくらいです。貧しさというのは、それが理不尽であればあるほど受け入れ難いものです。みんなが貧しい時よりも、今日の格差社会で生み出される貧困は理不尽で、そこから抜け出せない人々からすれば、非常に深刻な問題です。

信仰をもって、社会を良くしていこうといういろんな活動をしている人たちが実はたくさんいるのですが、ほとんど知られていません。魂の貧困、魂のホームレスみたいなところから、現代社会に宗教が存在する意味、活動の可能性について考えていきたいと思っています。

研究最前線

遺伝的アルゴリズムの研究開発と応用

“最適解”をコンピュータ上で生成、実用化へ

生物の適応進化のメカニズムを工学的にモデル化

システム理工学部 電気電子情報工学科
花田 良子 助教

遺伝的アルゴリズムとは、生物の進化を模倣し、工学的にモデル化したアルゴリズム(問題を解くための計算方法・処理手順)だ。花田良子助教は、遺伝的アルゴリズムに基づく最適設計や並列処理に取り組んでいる。コンピュータ技術の進歩とともに計算できる量が飛躍的に大きくなり、大規模複雑な設計・制御などの分野で最適化を図るため、遺伝的アルゴリズムの実用化が課題だ。

カーナビの目的地ルート検索は「最適化」の例

—多くの選択肢の中から最も良いものを選ぶ「最適化手法」とは？

私たちの身の回りには多くの工学的問題が存在します。回路設計、プラントの制御、スケジューリング、マネジメントやプランニング、建物の構造設計など。これらの多くは限られた資源、制約のもとで最善の“解”を決定することが望まれ、最適化問題として定式化されます。最適化とは、ある制約条件のもと、目的関数の最小値、あるいは最大値を与える設計変数を求めることをいいます。

身近な例を挙げると、カーナビの目的地ルート検索でも最適化が行われています。目的地を入力すると最小走行距離のルートや最小料金ルートなどが表示されます。ここでは、ルートが設計変数で走行距離や料金が目的関数です。一方で、通過地点の指定などユーザが与える制約や工事中で利用できない経路などがあった場合には、それが制約条件になります。

目的関数および設計変数を設定しモデルが決定すれば、次に“最適解”を得るための解法が必要となります。遺伝的アルゴリズムもその一つです。

選択・交叉・突然変異を繰り返して“解”を探索

—遺伝的アルゴリズムとは？

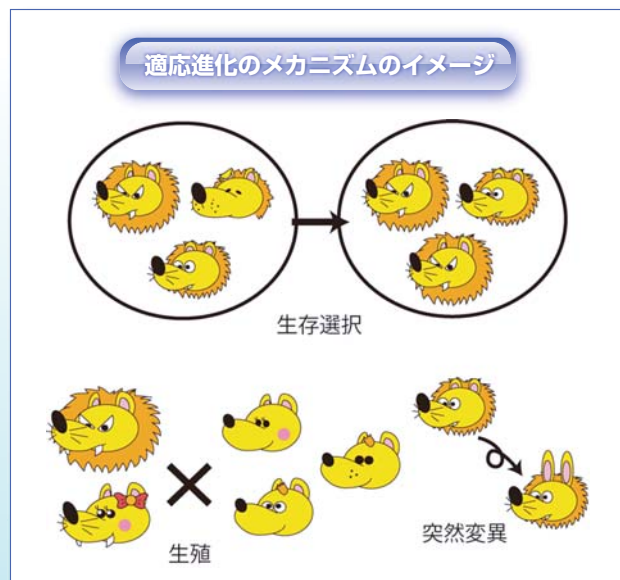
遺伝的アルゴリズムは、自然界における生物の適応進化のメカニズムを工学的にモデル化したアルゴリズムです。自然界では、生活環境に適応できない個体は死滅し、環境に適応した個体は生き残り子孫を増やしていきます(図:適応進化のメカニズムのイメージ)。このメカニズムをモデル化し、問題に対して最もよく適応する個体、すなわち“最適解”をコンピュータ上で生成しようというのが遺伝的アルゴリズムの考え方です。



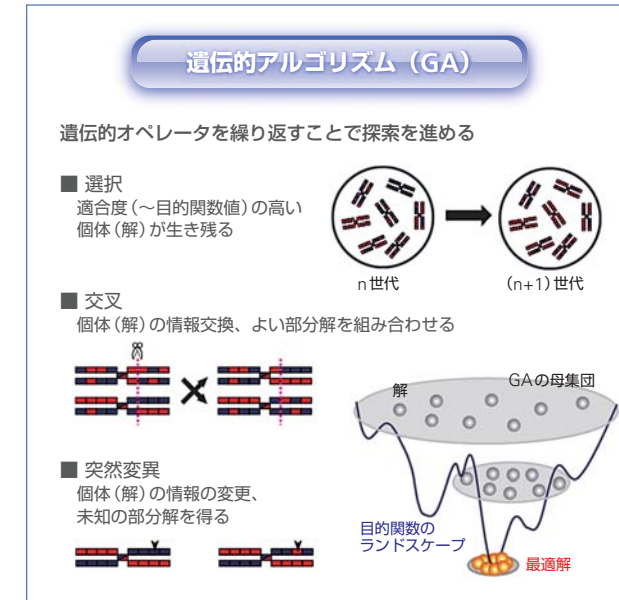
遺伝的アルゴリズムによる解探索は、個体(individual)と呼ばれる解の集合である母集団に対して、選択(selection)・交叉(crossover)・突然変異(mutation)と呼ばれる遺伝的オペレータを繰り返し適用することによって行われます。

ある世代を形成している個体間で交叉を行い新しい個体を生成する。また、一定の確率で遺伝子を反転させて、突然変異という操作を加える。こうして生成された個体を評価し、その中で環境への適合度が高い個体ほど高い確率で生き残り、次の世代を形成する。このような世代の更新を繰り返すことで、次第により良い個体が生成され、最適解に近づいていくというのが遺伝的アルゴリズムの基本的な概念です。

自然界においては、環境に対して適応する度合いの高い個体



Genetic Algorithms



が生き残り繁殖します。逆に適応力が低い個体は死滅します。遺伝的アルゴリズムにおいてもそれは同様であり、求める解に近い個体ほど、次世代へ残る確率が高くなるわけです。

生産計画、製品在庫の安定に寄与

—遺伝的アルゴリズムの応用例を挙げてください。

都市の集合が与えられたとき、すべての都市を1回ずつ訪問して、出発点の都市に戻って来るなかで最短の経路長を有するものを求める「巡回セールスマン問題(Traveling Salesman Problem)」は、代表的な組み合わせ最適化問題の一つです。X線結晶解析のアプリケーションや回路設計、タンパク質の構造解析などの基礎となるモデルです。

—具体的に花田先生がかかわった工場の生産計画(スケジューリング)の例を挙げて説明してください。

東大阪市にある部品工場で、在庫のコントロールを目的としたスケジューリングの数理モデル化と解法の開発に当たりました。多くの製品を複数の機械で製造するのですが、1台の機械は製造する製品の切り替え時にセットアップ時間を要します。2000種の製品と30台の機械の間に依存関係があり、セットアップ回数を最小化、つまり機械をフルに回転しつつ、どの機械にどの製品を処理すると製品在庫が安定するかということが課題でした。

遺伝的アルゴリズムにより1年間の各製品の生産スケジュールを自動生成したところ、最終的に総セットアップ回数を最小化しつつ、人手によるスケジュールに比べて在庫の変異幅(空き倉庫容量)を半分にすることができました。

実用性向上で強力な最適化手法に

—これからの研究課題は？

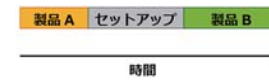
実問題へ遺伝的アルゴリズムを適用するにあたって望まれる

実問題への応用：部品工場の生産スケジューリング

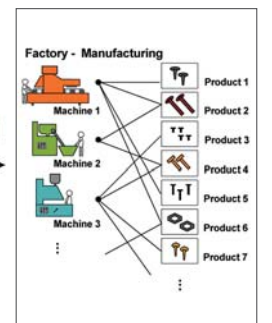
在庫のコントロールを目的としたスケジューリングの数理モデル化と解法の開発

多品種(2000製品)、多機械(30機械)：多くの製品と機械間で依存関係

•複数の製品を複数の機械で製造
1台の機械は複数の製品を製造できるが、製品の切り替え時にセットアップ時間を要する

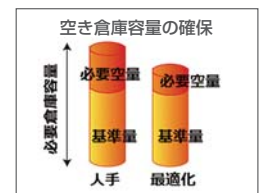


1年間の各製品の生産スケジュール
セットアップ回数を最小化(機械をフルに回転)しつつ、どの機械にどの製品を処理すると製品在庫が安定するか



1年間の各製品の生産スケジュールの自動生成

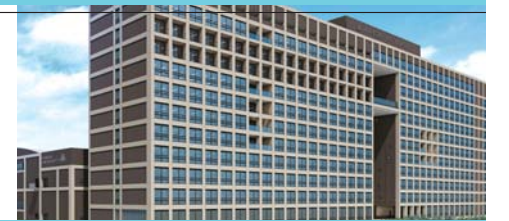
どの機械にどの製品を処理すると製品在庫が安定するか総セットアップ回数を最小化しつつ、在庫の変異幅(在庫を安定)を最小化
在庫の変異幅大=倉庫容量大



セットアップ回数を保ちつつ、在庫の変異幅を半分に

ことは、その探索性能、汎用性、実用性の向上です。高性能化を図るカギは、遺伝的アルゴリズムの主探索オペレータである交叉の設計にあります。交叉において、親個体が持つ良好な形質(部分解)が結合され、より優れた子個体が生成される操作を設計できたなら、遺伝的アルゴリズムは強力な最適化手法となりえます。

また、並列処理との親和性は遺伝的アルゴリズムの高い実用性を保証する大きな特徴の一つであり、負荷の高い実問題に遺伝的アルゴリズムを適用する際には、並列処理することで高速化が図られてきました。最近では、広域ネットワークの通信速度、計算機性能の向上により大規模な計算環境が整いつつあり、遺伝的アルゴリズムの実アプリケーションへの期待が高まっています。



新キャンパス開設特集・高槻ミュージズキャンパス

安全・安心のまちづくりに貢献する「社会貢献型都市キャンパス」が発進

小・中・高～大学・大学院 一貫教育の新拠点誕生！

高槻ミュージズキャンパスは、初等部、中等部、高等部、そして日本初となる社会安全学部・大学院社会安全研究科の特色ある教育・研究の場として、本年2月に竣工し、4月に新入生を迎えた。高槻市と連携した防災拠点としての機能も充実させた「社会貢献型都市キャンパス」がオープンした。



安全ミュージアム



関西大学ミュージズホール

●関西大学初等部・中等部・高等部 入学式挙行

高槻ミュージズキャンパスは、大阪と京都の中間に位置するJR高槻駅前という好立地に開設された。このキャンパスに初等部、中等部、高等部、そして日本初のも社会安全学部および大学院社会安全研究科が開設され、同一キャンパスの中で特色ある一貫教育を行う。

4月2日、第1回 関西大学初等部・中等部・高等部入学式が挙行された。初等部新1・2・3年生合計190人、中等部新1年生111人、高等部新1年生130人の児童・生徒が入学し、関西大学初等部・中等部・高等部の新しい歴史がスタートした。

●災害時の緊急避難、生涯学習に対応

高槻ミュージズキャンパスは、高槻市が提唱する「安全・安心のまちづくり」に寄与するため、施設に防災機能を備え、災害時の緊急避難場所としての役割を果たす。また「社会貢献型都市キャンパス」を目指し、約17,000冊の蔵書を収容する「児童図書館」や「生涯学習センター」を設けている。

教育・研究の成果を社会に還元するために、防災関係資料を展示公開する「安全ミュージアム」。最新の浄化システムにより災害時に生活用水を確保し、飲料水にも使用できる「室内温水

プール」。プールの床は可動式で、身長に合わせて8段階の水深を設定できる。さらに、太陽光発電設備、風力発電機も導入したエコ・キャンパスである。

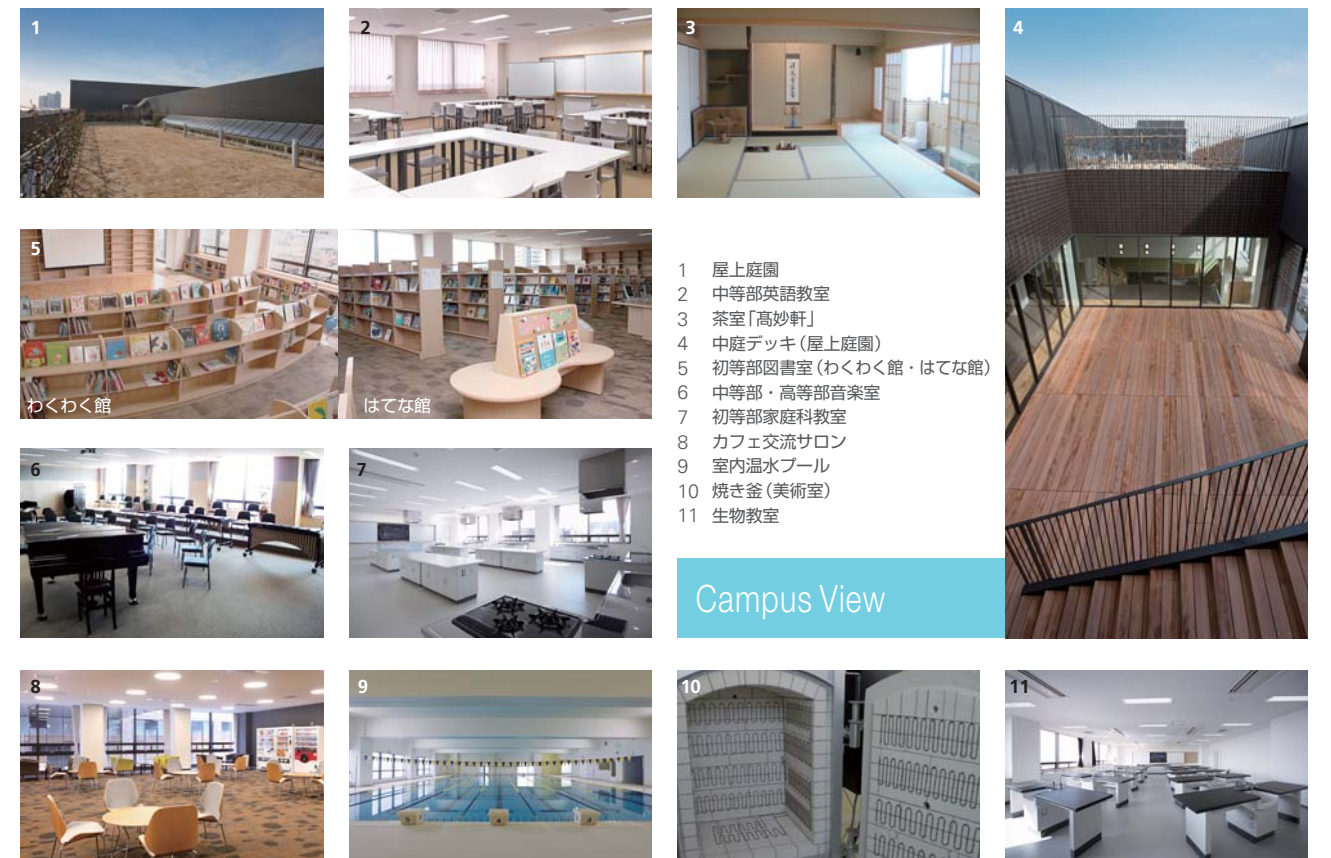
●社会安全学部・大学院社会安全研究科

社会安全学部は、防災・減災対策や事故防止、危機管理の実践と政策立案ができて社会に貢献できる人材を育成する学部である。安全で安心して暮らせる社会を実現するために、自然災害や事故に関する専門知識を身につけ、どのような制度や政策のもとで、どんな社会システムを構築していくべきなのかを考える。「社会災害マネジメントコース」と「自然災害マネジメントコース」の2コースを設置。それぞれの領域で高度な専門知識と実践力を身につけた人材を養成する。

大学院社会安全研究科では、学際的、複眼的なアプローチを通じてより高度な教育研究を行い、安全・安心な社会の創造という社会の要請に応える。

●子どもから大人へ——成長をはぐくむ

高槻ミュージズキャンパスは、今までの学校にはない開放感にあふれている。小学生、中学生、高校生から大学生、大学院生まで、年齢、学年を超えた人たちが行き来し、ゆとりのある広々



- 1 屋上庭園
- 2 中等部英語教室
- 3 茶室「高妙軒」
- 4 中庭デッキ(屋上庭園)
- 5 初等部図書室(わくわく館・はてな館)
- 6 中等部・高等部音楽室
- 7 初等部家庭科教室
- 8 カフェ交流サロン
- 9 室内温水プール
- 10 焼き釜(美術室)
- 11 生物教室

Campus View

としたスペースには、市民も利用できるレストランやカフェ交流サロンも設置されている。東館は、初等部・中等部・高等部の校舎棟、西館は大学・大学院の学舎棟、北館は体育・厚生棟となっている。

世代ごとに異なり、成長とともに変化するフロアカラー計画により、初等部は元気で明るく楽しい雰囲気の広がる空間、中等部・高等部はしだいに自立していく子どもが安らぐ空間、学部・大学院は落ち着いた印象の空間となっている。

高槻ミュージズキャンパスNEWS

開校記念式典・オープンキャンパス開催



4月24日、北館4階アリーナで「高槻ミュージズキャンパス開校記念式典」が開催された。上原洋允理事長と楠見晴重学長の挨拶、学校長紹介に続き、アイススケート部の高橋大輔さんと織田信成さんが駆けつけ、「期待のことば」を述べ、お祝いムードに華を添えた。さらに、初等部児童が入学後、短い期間で作詞し、練習した愛唱歌「心をひとつに」を全員で合唱した。午後からは「開校記念オープンキャンパス」が開催され、約3000人の参加があった。河田恵昭学部長による社会安全学部・研究科開設記念講演のほか、初等部の学校紹介、高等部の授業見学、ミュージズキャンパス見学、本学吹奏楽部と高槻市中学校吹奏楽連盟とのコラボレーションステージなどの催しが行われた。



新キャンパス開設特集・堺キャンパス

“スポーツ” “福祉” をキーワードに
人間の健康を探究する「人間健康学部」開設

健康に関する幅広い知識を
地域と連携しながら実践的に学ぶ

開校した堺キャンパスの「人間健康学部」は、“スポーツ”と“福祉”をキーワードに、人間の健康を探究することを教育研究の目的とし、多様な資格取得にも対応している。今後、新校舎(B棟)を建築し、堺市をはじめとする自治体と連携して、地域住民が健康で豊かな生活を享受できるよう、積極的に地域貢献を行っていく。



新築校舎(B棟)建築工事地鎮祭



●開校式・校舎(B棟)建築工事地鎮祭を挙

堺キャンパスは政令指定都市である大阪府堺市に位置し、南海電鉄高野線の浅香山駅前という交通の便に恵まれ、総面積は約3万㎡に及ぶ。

4月16日、上原洋允理事長、楠見晴重学長、竹内洋人間健康学部長らが出席し、堺キャンパス開校式および新築校舎(B棟)建築工事地鎮祭が挙

行された。新たに建築する校舎(B棟)は、鉄筋コンクリート造および鉄骨造、地上3階建て、建築面積1,571.48㎡、延床面積4,199.59㎡で、食堂や図書室などを設ける。2011年3月完成予定。

●体験学習・フィールドワーク重視で地域と連携

人間健康学部の設置構想は、堺市立商業高等学校・第二商業高等学校校地を利用した高等教育機関誘致事業に認められたもので、堺市の強力なバックアップにより、地域貢献・社会貢献を推進するための教育研究環境を備えている。

学校教育のシステムの中で体験学習を教育の手法として活用するための「プロジェクトアドベンチャー」施設や、笑いとユーモアについて科学的に研究するわが国初の機関である「ユーモア科学研究センター」などが設置されていることも大きな特長だ。

また、スポーツや福祉について、堺市など地域との連携プロジェクトを推進しながら、コミュニティスポーツの実践やフィー

ルドワークを重視した教育を行う。多彩なカリキュラムを用意し、健康で笑いのある、心豊かな暮らしの実現に貢献できる人材を育成する。

●「スポーツと健康コース」「福祉と健康コース」

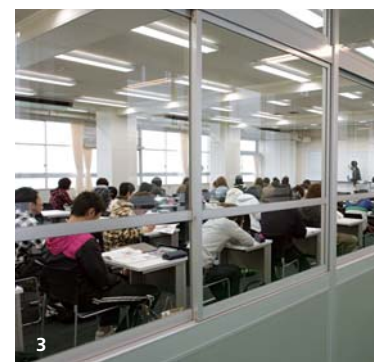
人間健康学部では、「こころ」「からだ」「くらし」を総合的にとらえ、健やかでおおらかな生き方を目指す教育と研究を行うことを目的に掲げている。

人間の幸福を実現するための健康にかかわる諸問題の解決手法を探究するため、スポーツを通して健康を学ぶ「スポーツと健康コース」と、福祉社会を支える力を身につける「福祉と健康コース」の2コースを設置。

「スポーツと健康コース」では、生涯スポーツ活動を通しての人間形成やコミュニティの再生、あるいはスポーツ教育を通じた新たな人間の健康のあり方を探り、地域コミュニティにおいて活動できるスポーツ指導者などの養成をめざす。「福祉と健康コース」では、社会福祉のあり方や実践を、人間の生活環境と健康との関係でとらえ、こどもや高齢者を、地域コミュニティを創造する生活主体者として見つめ、福祉文化の構築などの諸課題を教育研究する。

●多様な資格取得に対応

所定の科目を修得することにより、中学校・高等学校教諭一



Campus View

- 1 堺キャンパス・校舎外観
- 2 プロジェクトアドベンチャー施設
- 3 授業風景
- 4 体育館(アリーナ)
- 5 パソコン教室

種免許状(保健体育)、高等学校教諭一種免許状(福祉)が取得できる。スポーツ関係では日本体育協会公認スポーツ指導者のほか、健康運動指導士や健康運動実践指導者の受験資格、福祉関係では国家資格である社会福祉士受験資格のほかに、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司の任用資格が取得できる。

また、卒業後の進路として、“スポーツ”“福祉”のフィールドを中心に、幅広い分野・業種を想定している。健康・福祉・医療・観光関連の一般企業、スポーツ・レクリエーション・レジャー関連の公的機関職員、中学・高等学校教員、スポーツに関わる指導者、国や地方自治体の福祉部門、福祉関係施設などでの活躍が期待される。

堺キャンパスNEWS

堺シティマラソンに楠見学長が参加



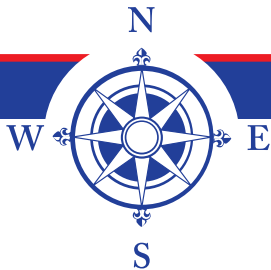
堺キャンパスのある堺市は歴史と文化のまちであり、仁徳天皇陵と大仙公園のあたりは豊かな緑に包まれている。4月29日に仁徳天皇陵・大仙公園を周回する「2010堺シティマラソン」が開催された。なんと今回は、楠見晴重学長が参加し、見事に激走した。



堺シティマラソンで挨拶をする楠見学長

堺シティマラソンは、「歴史と文化と緑の仁徳天皇陵と大仙公園を走ろう!」をテーマに1980年に始まり、今年は31回目。第1部健康マラソン(4.5km)、第2部ファミリーマラソン(2.5km)、第3部男女10キロマラソン(10km)、第4部男女10キロ一般(10km)の4種目が行われた。

楠見学長は健康マラソン4.5kmコースに参加。歴史と伝統を誇る関西大学に誕生した新学部の前途を祝するかのよう、新緑が映えるコースを走り抜いた。



高橋大輔さんと織田信成さんに学長表彰



梶見晴重学長から学長表彰を授与されたアイススケート部の織田信成さん(左)と高橋大輔さん(右)

体育会アイススケート部の高橋大輔さん(大学院文学研究科M2年次生)と織田信成さん(文学部4年次生)が、バンクーバーオリンピックフィギュアスケート男子シングルに出場し、それぞれ銅メダル獲得と7位入賞を果たしたこと、および高橋大輔さんがフィギュアスケート世界選手権2010において日本男子初となる金メダルを獲得したことに対し、関西大学は4月2日、学長表彰を授与した。

学長表彰とは、文化・学術・スポーツ・社会活動等の分野において顕著な功績を取めた本学の学生または団体に贈呈するもので、2009年3月から施行されている。

また、4月24日・25日の2日間、高槻キャンパスアイスアリーナにて、バンクーバーオリンピック応援感謝デイを開催。2人は、応援して下さった方々に感謝の舞を披露した。

関西大学おおさか文化セミナーが30周年

「関西大学おおさか文化セミナー」は、関西大学と大阪府の共催で年2期、天六キャンパスで実施している一般社会人向けの公開講座。2010年度で30周年を迎え、「30周年記念講座」とともに学び、ともに築く、「おおさか文化」をテーマとする5回シリーズの記念講座を開催する。参加者は仕事帰りの方をはじめ勉学意欲の高い方が多く、魅力的なテーマが相まって、400人の定員が一杯になる人気講座である。関西大学では他にも、吹田市、高槻市と連携した公開講座を定期的に行き、市民に学びの機会を提供している。



「関西大学おおさか文化セミナー」の告知チラシ

校友会「スプリングフェスティバル」開催

校友と家族、教職員とOBに現役学生も含めたオール関大人の春のイベント「2010スプリングフェスティバル～桜の母校によっといデー～」が、4月4日の日曜日に千里山キャンパスで開かれた。



中央グラウンドで歓迎セレモニーが催され、学生による演舞・演奏が繰り広げられた。凜風館1階の特設ステージでは、落語大学学生による「さくら寄席」を特別公演。また、野点会場を設営し、茶道部学生がお点前で歓迎。桜を愛でながら句作もでき、作品の中から「春の俳句大賞」を選び、入選者には後日賞品が贈呈された。

恒例の物産展やガレージセール、餅つき大会、さらに学生日本一に輝いたアメリカンフットボール部のグッズ販売など多彩なイベントが行われた。校友親子の「進学相談」、総合図書館の「資料に描かれた象」展、博物館企画展「はくぶつかんの海外資料～モノでめぐる世界旅行～」などにも、多くの人が訪れた。



▲中央グラウンドで催された歓迎セレモニー

体育会サッカー部から3人がJリーグへ

関西大学体育会サッカー部に所属し、今年3月に卒業した3人が、今季からプロサッカー選手としてプレーすることが決まった。

商学部の児玉剛さんは京都サンガF.C.に、社会学部の宇佐美宏和さんは栃木サッカークラブに、文学部の西岡謙太さんは水戸ホーリーホックに、それぞれ2010シーズンの新加入選手として加入し、すでにプロ選手の道を歩んでいる。

関西大学サッカー部の2009年の主な戦績は、第38回関西学生サッカー選手権優勝、第89回天皇杯全日本選手権出場、第58回全日本サッカー選手権大会3位。好成績を支えた3人の活躍を期待し、応援しよう。